

K S K Q

イマージュ

2018年9月

1991年9月3日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

都会の収容施設から
太古の海の記憶へと。
命を祝え！



photo by bozzo

ニライカナイ
命の分水嶺
劇団 熊変
第68回公演

ニライカナイ - 命の分水嶺

作・演出・芸術監督 金満里

日時 2018年
11月2日(金) 14:00 / 19:00
11月3日(土) 14:00 / 19:00
11月4日(日) 14:00

会場 座・高円寺1(東京都杉並区高円寺北2-1-2)

アボタカを心に

金満里

アボタカの足、というおきな心にインプットされた強烈なイメージがある。

大好きな母親と姉に連れられ、そのまま自分だけが置き去りにされた、障害児隔離収容施設の初夜。私自身の幼少期に起こったそれらの記憶はない。きっと恐ろしさのあまり、記憶から消し去ってしまったに違いない。

それが2年前に起こった、あの事件、相模原やまゆり園19名障害者大虐殺、をきっかけに私の奥底から、殺された19名の恐怖を考える時に、蘇ってきた。

アボタカの足は、施設でのベット8個のならば8人部屋に、あった。

施設入所の夜、私には、恐怖と圧倒的な孤独のどん底の渦に落とし込まれる経験。

その施設の敷地を隔てる細い道の真ん前に、蒸気機関車が通っていた。

それは夜9時になると一斉に施設に訪れる、消灯、という無理やりな闇。無類の恐怖として浮上してくる、不気味な音と振動。そして、音と光が現れだし、蒸気の白い噴射が施設の窓を吹き荒らすかのように被う。

音・光・振動・真っ白に被う煙、絶叫したい衝動にいつも駆られる恐怖のなにもでもない、体験。

そこに消し去った記憶に、浮かびあがるようにして、アボタカの足、があった。

それは女の子の足だった。

細い棒きれのような、生きているのか死んでいるのかわからない、無味乾燥な物体の「アボタカ」と自分を呼ぶその足の主は女の子。

私たち子供たちに、女の子は、ベットに寝かされその細さ故に、存在は見えず、不在の存在だった。

そして、世話をされるときだけに職員によって持ち上げられる女の子の足がVの形で現れ、私たち子供には、その足Vで確認されるだけ。

そのアボタカの足Vは両足をVに広げられた膝の下あたりに横一文字に棒切を差し込まれている、足だった。施設入所で、先の住人アボタカのVと出会う。

どの子供の口から、目前に広がる突如と現れるその足Vの光景、を聞く子供もいなかった。

アボタカの足を二つに裂き棒切れで射抜き、そのままそれを道具に世話をする場所。

非人間的な場所に放り込まれたことを、思い知るに余る残忍な光景。

障害児施設の、孤独と恐怖に苛まれても、誰も助けには来てくれず声を上げることもできない、巨大で冷たい施設の空間に放り込まれた夜。その耐え難い、受難の始まりに、私の記憶にある、夜の闇に襲ってくる蒸気機関車と共に、アボタカの足は、恐ろしさの象徴だった。

その後、アボタカは部屋のベットからこつ然と消える。

他に転院していったのか、行った先の安否は暗く、命は絶えた、と子供の誰しも口にせず思っていた。

隔離収容施設は絶望のどん底なんだ、という実態をアボタカは身をもってその足Vで他の子供の心に記憶に残し教えてくれたサイン。

アボタカという友の、言い表せぬ悔しき、憤りを、諦めから解放放ち、その後の私は一緒に施設を脱走しようと、飛翔しようなものだ。

私は障害児隔離収容施設からのサバイバーだと、人から言われる。

アボタカの足を、心に抱きながら全ての障害者を隔離収容施設の檻の中から、

誰もそこ居たくて居るんじゃない。他にいくところがないように、締め出した、のは誰だ?!

そして、相模原やまゆり園では、19名もの障害者を殺させた、のは誰だ?!
という声と魂を引っさげて、みんなで脱走をする!

都会の市民生活を安泰にさせる為に作られる障害者を閉じ込める施設、から、

命を生き活きと生き返らせる、太古の森へと、魂の自由を求めてジャンプする。

そこに、アボタカの足Vは、魂の自由を求めるサインになる。

私は、今回の東京『ニライカナイ・命の分水嶺』再演でようやく、アボタカと向き合えるような気がする。



相模原以後、踊ることは…

劇団態変

「アウシュヴィッツ以後、詩を書くことは野蛮である」(テオドール・ワドルノ「文化批判と社会」1955年)

2016年7月26日神奈川県相模原で起こされた未曾有の障害者大虐殺事件は、この引用文を思い起こさせるほどに人間的営為を揺るがすものだった。

だからこそ、この事件を契機に、金満里は『ニライカナイー命の分水嶺』を作った。

作品の舞台は、都会の障害者施設と沖繩の原生林。現実には決して交わらない二つの場所を、施設を飛び出した「アボタカの足」が闊歩し、解き放たれ、解き放ち、生命の、存在の、絶対的肯定を謳いあげる。

機能性と効率に価値を置く現代文明の一つの極端な「成果」がアウシュヴィッツにおける最大効率化された虐殺という野蛮であった。相模原大虐殺は、この文明がその野蛮を障害者に向けることを止めていかなかったことの証左であろう——顕在化した優生思想という形で。

だとすると、野生を取り戻すことにこそ、出口を求めなければならない。

受け止めかた、向き合いかたの変化

坂手洋二(劇作家・演出家 燐光群)

『ニライカナイー命の分水嶺』は、金満里さんが、ご自身の苦渋の体験に対して、舞台に乗せるという形で、向き合い、たたかい、表現者として昇華させる作品のようだ。

金さんと出会ってもう三十年くらいにはなるのだが、かつて若者であった私たちも、この社会の「いま」を感じ、振り返って見るときの視座が違ってきているはずだ。もともとは多くの場合、この社会に対して「挑む」というつもりで作品づくりをしてきた私たちなのだと思うが、今や「あんたたちが生きてきた、あんたたちが作った世界の話だぜ」と、何者かに突きつけられているような実感も生まれている。

まさにその意味で、「7・26相模原19名障害者大虐殺事件」の衝撃は、私自身にも轟いた。打ちのめされもしたが、様々な直観も得た。

東京・座高円寺。同じ劇場で、金さんたちのすぐ後に私も新作を発表する。しつかりバトンを渡していただけると信じているし、とことん受け止めたい。

金満里の身体表現論は文明に飼いならされないありのままの身体、五体満足・直立二足歩行の呪縛から自由な身体障害者の身体に基礎を置く。

そうやって磨きあげてきた態変の抽象的身体表現に、本作では剥き出しの生命の絶対肯定に連なる野生の力が付加された。スタッフとして稽古に立ち合う度に生命パワーに触れて大いなる力を貰う。本番の舞台はどんなに凄いだらう。

そこに、象徴的具象表現が重ね合わされ(何が舞台上に現れるのかは、劇場で目撃されたし)表裏渾然一体の世界に巻き込まれていく。そういう作品として仕上がりつつある。

あなたも生きていい

それを脅かし、あるいは生き方に「生産性」云々とタガをはめてくる、そういったものどもに対する一つの答えを『ニライカナイー命の分水嶺』は提示することになるだろう。

アウシュヴィッツ以後、相模原以後、踊らないでいることは、野蛮への屈服である。

木

華雪(書家)

感動したり、昂揚するのは意外に楽なことなのかもしれない——劇団態変の舞台を前にすると、簡単に感動することは許されないような思いがこみ上げる。自分がどうして今その気分にとどり着いたのか。そこに至るまでの気持ちの動きをたどり直し確かめることの必要性を、金さんたちの表現やあり方が、わたしたちに知らせてくれているような気がしてならない。

わたしはなにを見ているのだろう。いま感じていることばにならないものを考え続けることがきつとたいせつなのだろう。そんなことを考えながら、夜道を歩く。ふと街灯に照らされた街路樹が目に入る。連なる木々は、じつに様々な姿で立っている。枝を短く剪定された木、あちこちにこぶのある木、幹がねじれた木——その姿に、態変のメンバーの姿が重なる。障碍とはなにか、健常とはなにかと問いかける、声なき声が聞こえてくる。



書『木』1400mm×5000mm 2018 高橋コレクション

『ニライカナイー命の分水嶺』東京公演 関連企画

「相模原事件をあなたは覚えていますか？障害者と共に人間の価値を真から問い直す」

～プログラム～

●劇団態変の活動紹介 …金満里 ●相模原事件とヘイトクライム …保坂展人 ●対談 …金満里 × 保坂展人

【日時】2018年9月29日(土) 午後2時～4時 (1時30分開場)

【会場】世田谷区 烏山区民会館ホール 東京都世田谷区南烏山6-2-19

【参加費】一般 1,000円 学生 500円 障害者 500円

【主催】一般社団法人 日本社会連帯機構 【共催】NPO法人ワーカーズコープ・協同総合研究所 【後援】世田谷区

【申込】一般社団法人 日本社会連帯機構 ※要申し込み

電話：03-6907-8051 FAX：03-6907-8031 E-mail：jssso@roukyou.gr.jp

※車いすをご利用の方は、席数に限りがございますので申込時にお知らせください。

劇団態変は2018年度新規継続賛助会員を募集しています。

劇団態変は、2012年4月に賛助会員制度を設けました。行政からの補助金を受けず、身体障害者である態変のパフォーマーが主体となり芸術創造活動を行っていくため、資金面でのご協力を市民の皆様をお願いする取り組みです。会員の皆様の力によって、様々な企画や稽古の場となるメタモルホールを維持し運営することができています。

現在、2018年賛助会員を募集しております。

年会費

個人会員(年会費) 一口 5,000円

法人会員(年会費) 一口 20,000円

＜ご入会方法＞ 下記いずれかの方法をお選びください。

郵便振替

同封の振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。
口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変

PayPal

メールアドレスとクレジットカードをお持ちの方はホームページよりご利用いただけます。劇団態変HP → 日本語TOP → 「賛助会員制度」にお入りください。

会員特典

- ・会員証発行
- ・劇団態変公演映像DVD進呈（毎年1回当該年の公演ダイジェスト映像）

（個人会員特典）

チケット料金500円割引
（何度でもご利用可能です）

（法人会員特典）

一作品1名様ご招待

《劇団態変出版物ご案内》

情報誌イマージュ VOL.71

最新刊
2018年夏号

クロスオーバー談義 石川真生×金満里

「好きなように演る/撮る ㇿただ～それだけ～」



同じく1953年に生まれた2人の女。かたや高校生のときデモの衝突で人が死ぬのを目撃し吐きながら逃げ、でも表現せざるを得なくなつて写真家となった。かたや18歳まで収容され死んだように過ごしていた施設から障害者解放運動へ、だがそれでは真の解放は得られじと身体障害者の身体表現を始めた。出会って話し込んでその人の人生を愛しちゃったときにこそ写真を撮る女。その身体、その動きが良い！と惚れ込んでアグレッシブな舞台芸術を創る女。世界を変えようとしてやってるわけじゃない。好きなようにやる、ただそれだけ。でもそれだからこそ、それが世界を変えていくのかも知れない。

特集 7.26障害者大虐殺から2年 殺されてよい命なんて無い

警戒すべき案件 一相模原市事件を手がかりとして一 釈徹宗
すべての人は神の似姿である ～イエスが「罪人」としなかった人々～ 山本光一
相模原障害者施設殺傷事件より二年 啓蒙主義の暗面に関する考察 アブドゥルラフマン・ギェルベヤズ
他、読み物多数

バックナンバー等詳細は [ホームページ](#)

1冊：500円 / 年間購読 1500円（年3回・送料込） バックナンバー3冊 1000円

＜購入方法＞ 同封の郵便振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。単品でのお申込みは希望の号数記入もお忘れなく！
口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変



『ニライカナイ』では、実験的な音楽も舞台の要!!!

3人のミュージシャン それぞれが語る、 互いの音楽の魅力

SANgNAM by サエキマサヒロ（各種弦楽器等）

DJだから扱う音は主にデジタル、なのに、どうしようもなくアナログな世界を出現させる。重たいクラブのドアの向こうに叫び声が重なっていく。



児嶋佐織の音楽 テルミンの魅力 by SANgNAM (DJ・selector)

テルミンって音の強弱とか抑揚とかそういった類の楽器ではないと思っていました。ジョンスペンサーとか人間椅子の和嶋慎治とかがギター弾きながらその合間にアンテナに手を触れたりして「キョオオオオツツツ！」って音を出すんだ程度の認識しかなかったです。要するに効果的な音は出すけどメインにはならない楽器と言う認識でした。

昨年の大阪公演で児嶋さんと初めて共演させていただきましたが、テルミンってこんなに繊細な音が出るんだ！こんなに細かく音程を表現したり強弱をつけられるんだと驚きの連発でした。しかもちゃんとメロディも奏でられるし。ホント効果音的な～と思っていた自分マジで恥ずかしかったです(笑)。しかも楽器に触れないってどういうことなん？って、児嶋さんの演奏する横でドキドキしながら自分の音を出していたのはもう1年半前なんですね。東京公演でまた児嶋さんと一緒にできるのを楽しみにしています。

サエキさんの音楽 by 児嶋佐織（テルミン等）

相手が未知である音楽家について説明するとき、「何系」という言葉を用いて語ることが多いと思うのですが、サエキマサヒロさんを紹介するのにその手法は全く無意味です。

とにかくその音楽遍歴と紡がれる音楽については、どんな文字数を使っても伝えきれない。10年のお付き合いの私が知る限りでもブルース、ジャズ、エスニック、ロック、アイヌ、沖縄、果てはポップス、ヒップホップと、興味があらゆる方向を指していて、またそれらを呼吸するように「何系」のレッテルに縛られることなく自分の音楽に取り入れていく。

今回の舞台の演奏はほとんどの場面が即興的なものですが、瞬発的に現れる彼の音楽に、今まで積み上げてきた音楽の凝縮した甘露を味わうことができるはずです。共演の私も今から楽しみにしています。



公演情報

2年ぶり、2度目の登場となる座・高円寺。
各線東京駅からJR「高円寺」駅までは電車移動で30分程度と、アクセス便利な劇場です。
ぜひ関東圏以外からも、お越しください！
昼公演からお席が埋まりつつあります。お早めのご予約をお待ちしております。

劇団態変 第68回公演 / 座・高円寺 秋の劇場17

ニライカナイ - 命の分水嶺

日時 2018年

11月2日(金) 14:00☆★ / 19:00★

11月3日(土) 14:00★ / 19:00

11月4日(日) 14:00

会場 座・高円寺1 (東京都杉並区高円寺北2-1-2)
JR中央線「高円寺」駅 北口を出て徒歩5分

チケット (全席自由/当日受付先着順に整理番号を発行)

一般 4,000円

学生・シルバー 3,000円

障害者 3,600円

※学生は大学・専門学校生以下/シルバーは70歳以上 ※劇団のみ取扱

※手帳をお持ちの方/介護者1名は割引有り

※座・高円寺チケットボックスのみ取扱 ※車椅子席要予約(定員あり)

ご予約

① 態変 office イマージュ

E-mail taihen.japan@gmail.com

電話 06-6320-0344

web 予約 <http://www.asahi-net.or.jp/~tj2m-snjy/form/ticket2.html>

② 座・高円寺チケットボックス(月曜定休)

TEL 03-3223-7300 (10:00~18:00)

☆印の公演は託児サービスあり

(定員あり・対象年齢1歳~未就学児・1週間前までに会場へ要予約) 料金:1,000円。

芸術文化振興基金助成事業 提携:NPO法人劇場創造ネットワーク/座・高円寺 後援:杉並区

新春公演

第29回 下北沢演劇祭 参加

金満里ソロ公演 ウリ・オモニ

監修 大野一雄 振付 大野慶人

日程 2019年2月8日(金) 19:00 9日(土) 14:00 10日(日) 14:00 11日(月祝) 14:00

会場 ザ・スズナリ(下北沢)

題名は、韓国語で「わたしのお母さん」。

'98年エディンバラで初演以来、国内外で再演を繰り返す珠玉のソロー作目。

詳細は追ってホームページ等で公開します。

発行人: 関西障害者定期刊行物協会/大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F

photo by bozzo (p1 p2 p3 p6上) 中山和弘 (p6下3枚)

編集人(返送先): イマージュ 金満里 仙城真 七井悠 和田佳子

〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路1-15-15

tel/fax 06-6320-0344

e-mail taihen.japan@gmail.com

定価 50円